

公民		教科用図書選定にかかる学校調査会調査用紙			
東書					
<p>1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>「深めよう」という読み物資料が8ページ、本文の学習を深めるために、個人やグループで行う作業や活動を指示する「公民にチャレンジ」が20か所、本文での学習をくわしく説明したり、関連する内容を紹介したりする「公民にアクセス」が50か所ある。本校では、高等学校での現代社会の学習を見据えた公民的分野の学習を展開しているため、このように、発展的な学習内容が充実していることは評価できる。《⑧》</p>					
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>「学校でのグラウンド使用について」「10年前のマンションの駐輪場問題」「現在のマンションの駐輪場問題」「食堂の券売機」など、「対立と合意」「効率と公正」の観点から、生徒が主体的に考えやすい具体的な事例が提示されている。本校の社会科では、積極的に協同的な学習に取り組ませており、生徒どうしが議論するための題材として活用できる。《②》</p>					
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>資料や本文に「分野関連マーク」を提示し、地理的分野や歴史的分野で学んだことをふまえながら学習させることで、これらの分野ではぐくまれた能力や態度が更に高まり発展するよう配慮されている。高等学校の地理歴史科、公民科の学習へと円滑に接続するためにも、三分野を関連付けて学習させることは重要であり、「分野関連マーク」を活用させて学習に取り組ませることは有効である。《⑥・⑧》</p>					
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>製本は丈夫であり、文字の大きさ・行間などは適切である。また、資料、地図、写真なども鮮明であり、大きさ、位置、色なども適切である。章ごとに色分けを行い、分かりやすい工夫もなされている。《①・②・③》</p>					
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>巻頭に「持続可能な社会を目指して」の項目があり、終章の「持続可能な社会の形成を考察する」と関連づけている。公民学習を通して、一貫して「持続可能な社会」の実現について課題意識を持たせ、追求させるよう工夫がなされている。本校では、「卒業レポート」として「持続可能な社会」をテーマに、主体的・協働的な学習に取り組ませており、分野の特性を生かすうえでも利用価値の高い構成となっている。《③》</p>					
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>資料、統計などは最新のものが多く、特に2013年、2014年といった最新の写真が掲載されている。また、終章のレポートの作成に至るまで、「調査の達人」というコーナーで順を追って社会科のレポート作成のための手順が丁寧に掲載されている。終章でのレポート作成の手順もテーマ設定からまとめの発表まで大変わかりやすく解説されており、また、テーマ例が豊富で生徒が学習に取り組みやすい。《①・②》</p>					

公民		教科用図書選定にかかる学校調査会調査用紙			
教出					
<p>1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>学習から興味や関心を広げていくコラムとして「公民の窓」が29か所、学習をさらに深めるコラムとして「クリップ」が11か所提示されている。内容をいくつか挙げると、「被災地の復興がもつ意味」「ベアテさんが残したモノ」「もしものときの弁護士」「未来のためのCSR」「裁判傍聴を終えたある生徒の感想」「国内外に喜びを届ける会社」など多岐にわたるとともに、時事的要素が取り入れられているので、生徒の興味・関心を喚起しやすく学力の向上が期待できる。《⑧》</p>					
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>「学校で起こるさまざまな問題」「マンションの駐車場問題」「マンションの管理規約」「プラスサム交渉」「ドイツの交通ルールについて」等、「対立と合意」「効率と公正」の観点から、生徒が主体的に考えることができる事例が提示されている。《⑨》</p>					
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>巻頭の「日本と世界の歩み」の年表で、公民的分野の学習を、歴史的事象と関連付けて学習できるように工夫がなされている。また、巻頭の特集に「公民にアプローチ」として新聞を活用するためのさまざまなステップが丁寧に説明されており、社会的事象について考えたことを説明したり、意見をまとめたりするために、依拠する資料の重要性について知ることができ、公民的分野の学習材として有効である。《⑥・⑩》</p>					
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>製本は丈夫であり、文字の大きさ・行間などは適切である。資料、地図、写真なども鮮明である。《①・②・③》</p>					
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>終章で「私たちにできること」と題して、持続可能な未来のために、自分ができるところを、「未来への私の約束」としてまとめる課題が設けられている。3年間の社会科をふまえて、社会の参画者として望ましい行動について主体的に考察することができる効果的な課題である。《④》</p>					
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>人物キャラクターの問いから学習が展開されるなど、キャラクターが効果的に配置され、理解を助ける工夫がなされている。また、図版資料等には番号が付され、本文との関連をわかりやすくするなど工夫がなされている。《①・②》</p>					

1. 大阪市教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

本文の内容を助けるコラムが2種類提示されている。「もっと知りたい公民」は12ページ、「深める公民」は11ページ分ある。テーマはいくつか例を挙げると、「日本の文化を考えてみよう」「憲法改正について考える」「冤罪と日本国憲法」「TPPと日本」など多岐にわたるとともに、時事的要素が加味されており、生徒の学力向上が期待できる。《③》

2. 教育基本法に基づく観点

「部活動の体育館の利用方法」等、「対立と合意」「効率と公正」の観点から生徒が主体的に考えやすい事例が提示されている。ただし、事例がやや少ないように感じる。《③》

3. 学習指導要領に基づく観点

巻頭の見開きに「現代の世界」を示す地図が、また、巻末では詳しい現代史年表が配置されており、地理的分野、歴史的分野の内容と関連して学習できるよう構成に工夫がみられる。また、「もっと知りたい公民」「深める公民」が随所に掲載され、現代の社会的事象や課題について、多面的・多角的に考察できるような構成になっている。さらに、各編の導入には生徒が興味・関心を持ちやすい人物の言葉が取り上げられており、まとまりをもって学習することができる工夫がなされている。《⑥・⑧》

4. 外的要素に関する観点

製本は丈夫であり、文字の大きさ・行間などは適切である。また、資料、地図、写真なども鮮明である。《①・②・③》

5. 構成・配列に関する観点

「よりよい社会の形成者をめざして」をテーマに卒業論文を作成し、テーマの決定・情報収集・取材・調査・まとめ・発表などの学習活動に主体的に参画する資質や能力が育成できるように配慮されている。《③》

6. 資料その他に関する観点

各単元の見開きページには本文の記述を補充する解釈や注釈、「調査」マークを付した課題などが整理して配置されている。《①・②》

公民		教科用図書選定にかかる学校調査会調査用紙			
帝国					
<p>1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>本文の補助として、未来の社会をつくるために参考となる取組を紹介したコラムが20か所掲載されている。さらに、公民の基礎的な技能を磨くコーナーは7か所あり、例えば「ロールプレイング（役割演技）をやってみよう」「報道から事実と意見を区別してみよう！」などがある。また、近い将来役立つ知識として、「How to …」と題して、「裁判員になったら」「クレジットカードの危険性」などを紹介している。これらの内容は、時事的な要素も含み、生徒が興味・関心を待ちやすいテーマでもあることから生徒の学力向上が期待できる。《③》</p>					
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>「スロープ設置の費用負担」「ごみおき場の掃除規則」「マンションの騒音問題を解決しよう」「暮らしをよくする政治」「道路拡張計画をめぐって」「赤字バス路線廃止計画をめぐって」など、「対立と合意」「効率と公正」の観点から、生徒が主体的に考えることができる具体的な事例が提示されている。《③》</p>					
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>本文の随所に「地理・歴史をふりかえる」という項目が設けられ、地理的分野や歴史的分野で学んだ内容をふまえ、生徒が自ずと三分野を関連付けて学習することができるような工夫がなされている。また巻頭では、「年齢に応じてできること」と題して、公民的分野において学習した内容身近な社会的事象の関わりについて説明し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。《⑤・⑧》</p>					
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>製本は丈夫であり、文字の大きさ・行間などは適切である。資料、地図、写真なども鮮明であり、大きさ、位置、色なども適切である。《①・②・③》</p>					
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>「トライアル公民」で、意見をまとめたり話し合ったりするための題材が具体的に示されており、多面的・多角的に社会の事象を捉えることができるようになっている。また、第5部の「よりよい社会をめざして」ではレポートを作成することを通して、持続可能な社会への主体的な参画について意識を高める工夫がなされている。《③》</p>					
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>各部のはじめの「学習の前に」では、学習の導入に資する大きなイラストや写真が効果的に用いられており、生徒の気付きを促すような工夫がなされている。本文中の図版資料の大きさも適切であり、視覚に訴える活動を多く掲載され、生徒の学習活動が有効に行えるよう工夫されている。《①・②》</p>					

公民		教科用図書選定にかかる学校調査会調査用紙			
日文					
<p>1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>教科書の理解を助けるコラムやコーナーが「プラスα」として38か所ある。さらに、学習への理解が深まる具体的な作業学習を提示している「アクティビティ」が18か所ある。内容の例を挙げると、「海外旅行で気をつけること」「世界の宗教と芸術」「ワーキングプアってなに?」「多数決で決めることと悪いこと」「株式投資をしてみよう」など多岐にわたり、時事的要素も含んでいる。生徒にとって、興味・関心を持ちやすいテーマが多いので学力向上が期待できる。《⑧》</p>					
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>「合唱コンクールの練習予定」「保りの決め方」「効率と公正の視点から評価してみよう」「ケーキの分け方」「合意を考えるための問題」など、「対立と合意」「効率と公正」の観点から、生徒が主体的に考えることができる。《⑧》</p>					
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>巻頭に「日本の現代史年表」「現代の世界のようす」で、年表や地図が掲載されており、地理的分野・歴史的分野で学んだことを土台として、公民的分野の学習ができるような工夫がなされている。また、「公民タイムトラベル」は過去の出来事を説明するコラムとなっており歴史学習の復習にも役立つ。各編の最後には「合意を考えるための問題」が示され、生徒が話し合いによって社会的事象を具体的に考えることができるように工夫されている。《⑧・⑧》</p>					
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>製本は丈夫であり、文字の大きさ・行間などは適切である。資料、地図、写真などは鮮明であり、イラストが多く生徒が親しみを持ちやすい。《①・②・③》</p>					
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>「チャレンジ公民」や「明日に向かって」で、具体的な現代社会の見方や考え方について考察する教材が掲載されている。第5部の「私たちの課題—持続可能な社会をめざして—」でのレポート作成も手順が丁寧に示されている。《⑧》</p>					
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>「選挙の投票」や「内閣が成立するまで」の単元に代表されるように、社会のしくみを具体的にイメージしやすい図版を活用しやすいよう掲載に工夫がみられる。また、「バリアフリーの社会をめざして」のページでは実際に点字に触れて学べるように工夫している。《①・②》</p>					

公民	[REDACTED]	教科用図書選定にかかる学校調査会調査用紙	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]
自由社					
<p>1. 大阪市教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>「もっと知りたい」という読み物資料が21か所、本文の学習を補足したり、より発展的な内容を付け加えるミニ知識が36か所提示されている。読み物資料は例えば、「科学とは何だろう」「芸術とは何だろう」「宗教とは何だろう」「立憲主義を受け入れやすかった」など生徒が興味・関心を持ちやすいものが多く示されており、文章量も豊富で学力向上が期待できる。《⑧》</p>					
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>「学校生活での対立と合意」など「対立と合意」「効率と公正」の観点から、生徒が主体的に考えやすい具体的な事例が提示されている。ただし、事例がやや少ないことが課題である。《⑧》</p>					
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>序章で歴史的分野の学習内容を振り返ったり、外国を紹介するレポートを作成させたりすることで、地理的分野・歴史的分野での学習の成果について振り返りながら、三分野を関連付けて学習できるような構成になっている。ただし、本文中には分野の関連を示す記載がなく、その点においてはやや不足を感じる。《⑧・⑨》</p>					
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>製本は丈夫であり、文字の大きさ・行間などは適切である。資料、地図、写真なども鮮明である。《①・②・③》</p>					
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>各章のまとめで「学習のまとめと発展」というページがあり、テーマを1つを選んで400字でまとめるという学習課題が設定されている。これは、終章の持続可能な社会を目指してというレポートと卒業論文をつくらうにつながるものであり、生徒に思考力・判断力・表現力を身につけさせることができる。《③》</p>					
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>「年金について考えてみよう」では、年金制度の仕組みや今後の考えられる課題について、図版や統計資料を用いて考察できるよう工夫されている。《①・②》</p>					

公民	[REDACTED]	教科用図書選定にかかる学校調査会調査用紙	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]
育鵬社					
<p>1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>本文の理解をさらに深めるためのコラムが30ページ用意されている。また、生徒一人ひとりに主体的な問題を考えさせる「考えよう」というコーナーは3か所あり、「だれにも迷惑をかけなければ何をしてもいい?」「だれもが活躍できる社会へ」「死刑制度」など重要なテーマが設定されている。さらに、社会的な技能を磨く「やってみよう」のコーナーは4か所あり、例えば「ディベートをやってみよう!」「もしも警察がなかったら?」など生徒が興味・関心を持ちやすいものが多く、学力の向上が期待できる。《⑧》</p>					
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>「文化祭の劇主役を決める」「ケーキの分け方」「スーパーの出店」「救急車出動回数改善案」「三審制について」「年金問題」など「対立と合意」「効率と公正」の観点から、生徒が主体的に考えることができる具体的な事例が提示されている。《③》</p>					
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>巻頭ページで三分野の関連についての概念図や「資料年表」などが配置され、地理的・歴史的な視点と関連付けながら、現代社会の姿を捉えることができる工夫がなされている。また、「理解を深めよう」や「考えよう」などで、現代社会におけるさまざまな課題が取り上げられ、生徒が興味・関心をもって主体的に学ぶことができるよう工夫されている。ただし、本文には三分野の関連をふまえた記述の充実が求められる。《④・⑨》</p>					
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>製本は丈夫であり、文字の大きさ・行間などは適切である。また、資料、地図、写真なども鮮明である。《①・②・③》</p>					
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>社会科のまとめとして「私は内閣総理大臣『持続可能な社会』を築いていくための国づくり構想を立てよう」という課題を提示している。テーマを決めるためのウェビングマップや、豊富なテーマ例、国づくり計画書の作成など生徒の主体性を伸ばす効果的な学習材が示されている。ただし、全体として発展的な学力を高めるには、本文の記述内容のさらなる充実が求められる。《⑤》</p>					
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>「世界で活躍する日本人」「私たちのまわりのクールジャパン」など身近で話題性のあるテーマについて取り上げている。また、写真や新聞記事などを多く掲載し、社会事象に着目するよう工夫がなされている。生徒に考えさせたり、調べさせたりする活動を展開するうえで図版資料の充実が求められる。《①・②》</p>					